

LETTER FROM
OSAKA
GUY'S TRUE MIND
IN COMMERCIAL TOWN.

大阪からの手紙 その6

真白なボルボとやき鳥。

東区橋本に、真白なボルボがいつも止まっています。それもなんのおかまいもなしの路上駐車です。どこかの企業の社用車か？それとも、その筋の人達のお持ち物か？という空気をかもし出しているのですが実はこの車、すぐ近くの、やき鳥屋「鳥寿」のママさんの持ち物なのです。

コンタクト打ち放しの店内。カウンターとテーブルがありパパの番煎気をもつモダンなやき鳥屋です。昼・夜とも営業しているのですが、いつも店内はサラリーマン達でいっぱいになっています。彼らはまず、ビールで一杯の刺身盛り合わせから始まり、とりみせせり、きもつり、なんこつ、ひも、こころ、三角と、鳥の肉から骨から内臓まで次々が次へと注文します。そして全てのオーダーを「一体たりともミスなく、み」とはさばっているのが有名な、横畑ホルボのママさんな

のです。美人です。ゴルフはシングルです。スリムな体に愛着よく、テキパキとやきものをこなしてゆきます。けれどその笑顔の奥には、キラリと光るきれ者の目を持っています。そして、昼間の数々の修羅場を耐えてきたサラリーマン達が、そのストレスをビールとやきとりにつけている姿を見ながら、彼女はいつも暖い言葉をかけ勇気づけます。「出世しようと思たら、表を歩いたらあかんヨ。」といとも簡単に言い放ち勢いよく笑い飛ばしてしまつたのです。昼間の戦士達のストレスのかたまりが、いつの間にか真白なボルボに変わってしまったのでしょうか？

サラリーマンに、あなたにとつて夢はなんですか。という質問をするとマイホームを持つこと、という回答が数年前までは多数を占めていました。しかし地盤の高騰により、そのはかない夢が夢のままとなった近年、これまでロソクソソと貯めた財産をどんとん使っているという傾向が出てきました。リゾートブームです。内需拡大のかけ声に後押しされて、ゆとりある暮しを求めて活発な消費が行われています。その一つに高級車を手に入れますという動きもあります。日産シーマ、トヨタマークIIなどがどんとん売れ、BMW・ベンツ・ボルボといった外車が大阪市内でもよく目にするようになりま

した。

CLUB FAME COLUMN 1988
HAPHAZARD REMARKS
FROM KYOTO JAPAN

新婚生活通信 ③

スペシャル 特別

40

もうすぐクリスマスである。みなさんは今年のイブ（なんと土曜日！）はどうしてですか。私なんて新婚さんなのだから、やっぱりその夜は二人で過ごすことになると思います。ケーキと赤ワインと、安易だけどシャンパンを仕入れるのが私の役目。妻のほうは腕によりをかけて、ターキーでも用意してくれることを期待しています。そうぞ、私はBGMのセレクトもしなくては。いい感じのキャンドルやリースも最近入手しやすいし、なんせ特別な夜なのだから。

でも結婚すると、この「特別」が増えますよ。結婚記念日はもちろん二人の誕生日、盆・正月。さらに私たちが両親と別住まいだからとなく、そうでない人は親の誕生日までからんでくる。はつきり言つて多過ぎますね。イベントが、きちんと仕込みをやって備えるには、こまめさが必要になってきます。何年も続くと面倒くさくなって、ついそのへんのケーキを買って帰るというのも無理ない話。そんなことで愛情うんぬんを言われても困ってしまいます。

じゃあクリスマスなんてやめたらと言われても、私は新婚さんだし神の御前で永遠の愛を誓ったものだから、やっぱりこまめにやります。ただし23日は夜の街にくりだすつもりでせ

PROFILE

MASAYUKI TOYAMA 戸山真幸 [商社マン・1962年生まれ]

取扱高4位の大手商社に勤める彼はビッグコミックスピリッツの「なぜか笑介」の主人公とスムースにイメージがかぶる。油ぎることもない印象が彼のビジネスに大きな成果をあげているようだ。サッカーは抜群に上手。酒はあまり飲まぬようだが、ディスコパーティーはかなり好きなのようだ。

PROFILE

HONEY NISHIWAKI ハニー・西脇 [新婚さん・1959年生まれ]

「神戸在住。新婚生活で牙をみがれ、怒りを忘れた私は、何かもつとそれらしいことを書こうとしたが悪い浮かばず、バッキー氏の勧めもあって赤穂な通信を書くことになりました。公の場を借りてノロケさせてもらえば、これに勝る新婚笑利はない。なおペンネームは、妻が猫脚のバスタブに浸りながら、私をよぶ名前にかけてもらう。」と、プロフィールを自分で書く彼はインポートの香りがする。